KODAK Color Control Patches © Mediatech Company, 2000
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black

河海 中

十七 玉鬘 幷 初子 同 胡蝶
同 かしら 同 野分 同 行幸
十八 梅枝 十九 藤のうら葉 廿 さわらび
廿一 ふじばかま 廿二 まつかえ 廿三 雲隠

河海抄 枕冊中 三六位 物語作者源惟良撰

第十七 玉鬘

巻名

三位源氏物語 年月 巻の始末 摘要 巻の意 まつら 巻の意 巻の事

ふとて主深
あるとうあれ
よの中よりうと
おとあり
そのうちに小武
藏員令四左寧府少
口の名りすりうら
おとれ度のうち
永人て祖とうとり
以二首 小武六人
元なのおうと
うのみれとをて
ちるうのみれとをて
小武以人て
仁王天皇寧祚元七
勅旨國寧外云て年一百限仕陸奥初大寧
府是三庄國水自筑紫寺遊五千里八五千年

滿而不溢

寧四武

ひなか実

任限トモ

移人ニテ　年三月六　年
たるのち人ともそひこのかみ
大宰府ニ員ヲ帥府大弐ヲ小監人ヲ典小
典大小令史ヲ小弐叙爵之時小卿ト准監
叙爵ノ付ク史生ト号ス大監六位下小監
従六位上和當ヒ
ともにたまふ　吾堙共ニ　左近衛
あまたそなたへ

梁漱溟井未能見明地素呪宣棄指良文集

縁起云養老年中河内国小豊山深山修行聖人建立
十一面観世音菩薩之初生通場（聖武天皇御宇法道導師聖人建立
文武天皇御宇法道導師聖人（法道仙人也）養老年中観音等現告十一面
神亀元年云云家旧建立堂宇同七年三月廿
日供養禅師行基菩薩大唐僧宗皇帝后
馬氏夫人（文宗孫　武元女）形十一
人のそうりよりて日本国へ渡来給
よりて移給ふ仏ひとりの事と聞給ふ仏
事して東方へ帰給ふとの人て親ふとの

そくそうりよりて息と安置給ふ
ひとりとおもひてまつりこしてまつり
法厚上人生年十六にて建立仏菩薩守助
成と同法上人（聖武天皇御宇也）
元年のたうよ新堂安置仏菩薩
つまいりてこしてまつり
かうりとそこかうり
けて最初之仏菩薩
ふるまいて安置
まつりとまつる

（裏表紙）

第十七　玉磐　　并一秒音

[illegible]

嘉国寺見掌中暦云々一巻以来不審開
栄安和尚云々口実云々
元祐　二月廿三寿元記
[illegible]

[illegible]
夏秋[illegible]
[illegible]
[illegible]

奏して仏前に列立(トウリツ)し読経(トキヤウ)の後(ノチ)吹奏(スヰソウ)おはりて
奏手舞人(まひびと)一対(ツヰ)の陪従(ばいじう)
給(たまは)りて踏舞(たふまひ)八人(はちにん)
よりて次第(しだい)に舞人(まひびと)
出(いで)そめ〳〵禄(ろく)と座(ざ)に
つくまで奏(そう)し終(をは)りて退(まか)
り何(いづ)れをも同(おなじ)つくりにて
いまそかりし

陸奥(むつ)の守(かみ)は海(うみ)の螺(にし)
なき国(くに)なれば螺貝(にしがひ)
の代(かは)りに海螺(ほらがひ)
を給(たま)ふ

源氏(げんじ)の公卿(くげ)
殿上人(てんじやうびと)
地下(ぢげ)
の官人(くわんにん)
は螺貝(にしがひ)
を給(たま)ふ

陸奥(むつ)の守(かみ)は海螺(ほらがひ)を
給(たま)ふ故(ゆゑ)に海螺(ほらがひ)
の守(かみ)とも云(いふ)
螺鈿(らでん)の装束(しやうぞく)
螺鈿(らでん)の太刀(たち)
螺鈿(らでん)の鞘(さや)の文(もん)
白散(しらげ)
螺鈿(らでん)の平緒(ひらを)
螺鈿(らでん)の帯(おび)
螺鈿(らでん)の平文(ひらもん)
螺鈿(らでん)の帯(おび)

印綬を奉ずるに及ぶまで
たけのうちにて　竹川傳曲
竹の内のそれつつみつゝ彼方の
その下もとにたゝずみて我をいざなふ
うれしかりけるなるれうのさまにて
高中み　懈冠端奇或形　儀或高中子冠　自天統之
年　麹塵袍　白下襲
えんえんらくのうちにて

万春樂（バンシュンラク）　端奇曲傳来多氏系統之
うたをえんえんと謡人二拍子にて謡奇
うたを我家の奥にて聞く体曲也
うたのこゝろは
端奇拍子　延喜
端午節會に於て行端奇拍子曲也
親王方公卿殿上人等射場中物見
如例次第下賜
禄を賜はりて

琴碁袋 面沛帝色淳
徐綾裏唐綾 筆筆筒袋共唐綾

筆 錦袋 綿二
帳 和今袋如

玉勝 并二胡蝶

ニてふもろもろ(ニてふもろもろ)ゐてふ
らうとうの花の文し史(さしはさむ)
綾廊(ラウラウ)紫苑架(トウノヤカ)文砌(ともにゼイミ)紅葉(こうよう)ノ棚(たな) 文集

とれなのわれの人を
あのかおかをかきる美風
由てるものえ

とるときにものえらすこのう
歌うてい作るようつきみ
風吹の池(ニヲノイケ)文歩(ふみあるき)岸(きし)開(ひらく)
一枝を花園に移せ机右
不と蛙蛉の龍を石
吹のそれてまて

おれ人のこと勿れ勿の中
不見達来不勿切 韋編
少くして仙人こと
劉晨阮肇二人共入天台山一業と取と約て
桃と取て食こ一里斗行て仙女に逢半年夫婦
と成テ帰里に切に七世の流に逢ト云て劉晨阮肇
二人也 実縣ケ下ル入テ天台山採業迷失ル道
跡ケルナリ
曰上ニ云ク 望廃 平凋

死と云事也ニ云ル事のごとくなり
事のごとくなり古はこうてと云の物語
春双凋 反英撓 軟弱 凋ム 凋ム 凋ム
うつろふ 春示反音ハ律云 壹酘ハ中央通
言柳かりそ
言柳とそ多よりそ
学のめでたきをそや学のとけや二ヒ
めと春のえのこゝろ
ろたものまい

衆人（しうじん）邂逅（きく）よ如釜（によふか）春臺（しゆんだい）に
ならぶるよすのつきにと　笑ふ子のかきわし
えりも折かぬ仲れぬ思ひよ
さま也厥の仲れ思ひゐるよ折かれ串れさてくれるか
「かそふう　騷醞（さうどう）
かりよわくるもとそうしろ　惺等（あつら）　惺絹（かくきぬ）し　惺布（あう）し　惺絹に
ゐるのくてかへるよ　馬（とり）壹（い）識（しき）調（ぞう）
蝶八宗多院治門殺（れ）遣之（こと）　李アま能に見
ちろれひそんかくさう　白綱長に弟よ候の綱ちと

ありてつききかきハかれかりしも引膳ろうと
腰巻（こしざし）　足絆（ひきさす）し　此ハ巻絹し但右に春殊也
さればへ称よかさ五へうし
試るの様のかくよ着の称しかき五へき座てすいか
こちてみてきそれのかりし
高わかん八宜しくそうるけの袁てそて望かる候て
かれ田もてちのやかさくてつふきわん宗てきいと
らくわりゐろしきならへと見て人の包へるへるて
はるとしま勢ゐつまてならぬよれんとききてくられ

玉鬘巻　三帖

法花の未得謂得未證謂證の
ごとくうそをのみつきてひとりてほけ
ひとりしほる
五門弘教をもくは法花一実通と明する
ゆへんの
煩悩即菩提生死即涅槃　妙楽大
師之以権一部の大意作者已證のごとく
をこころえ方便として法花
等経と方等部の大意を格而云云
又、称一画之法花、祖師於一実圓融有
煩悩即菩提寿命即無量と
ふ事ゆへんは　不者
こくうのごとくの名
法花他を抜きて
ゆへんこれのみ
其のごとき人　亦
現父母等の通相於阿鼻

女郎花くかりくこのと
玉鬘 並に 常
そこのとこかりくきそ
西川より左そまうまるあの
春川心山女河の新
又新のかいひき

すゝき　和琴あり
とう右のもとにてうたふといふ
人のつき　筒書案　書古　景代　四ノ室
おもて
かぐらはじまりて　由若すまの和琴おとす
うたひてにぐ　うたひつゝ琴拾ひとりて
琴ことひきつゝ　ひとりさることさいとう事あり
わきかたのそれやくく
わきかたのそれやくかぐらにて
ささらつまら
なまりやうにあるよう
てかぐらつま一ぱ
ありてやうやうのまりて二ぱ
ありてやうやうのまりて公ひとりひり
まりて公ひとりひり
ものうたひつゝ　保元系古
人出来ればうたひつゝ
ありのかぐらさ
ひくうたひ
ひくうたひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おかつかからの左んしとそうに
ありかたしの御わかれ　妙法寺は例を　法誘和尚ヤマの内
妙法寺村とこ
きこえありとしれ大せつそ此の
咒詛　若得為人　聾盲瘖瘂　乃至謗斯
経故獲罪如是　は乱妃
ありとをてヽきて　は乱妃と説て一時は
わかれのまなこきりよ　御経文の内
人生在世のことわかれのまなこをわすれてあるべしとのこと

立よる八ちはいかにもそれと祈りかこちの光まけん
かひとてかすそかせんと思ひて　かまめの言をかひよなてこそ
ちり行かむきみそと思へとされぬりもされは光の出入
かきはまそとれ世の法名のつとふまいゆきゆきれかたり
わかさまとかはこ宿とみそ川そこの名ののさすかきつて
草かまとひこらのはのいつされいそかひらんたのかう法
蓮かなとこは世に言我あまよしまへうたとひこらのはの
一つしてたらのかう法名あんとつこと
かひりは名ののと

玉勝巻六　野分

山巻ばかりをよみて始終の詮なし

うつり易き木の末の

風ぞのこと　能因法師

春秋のあらそひは

春秋のあらそひの一言ここらの春の秋をもつ

中わのわきけのすそ
朝間形万旦開容儀
そろふそろふそろふ 茶話
一服の包 但わのうらこ一服そ持そ只今大
りうそうそうそ
みよ竹 簾竹
かそひつくゆこやしてそ
そわりのこて好こ方こ
と振文 紅り要式こ

ものそうれけらん也てと
唐紙文様 順和名 唐紙文紗の事し
けこつうこうる紙い 明月記こ 楊紙こうて方色

玉勝並七 御幸
打きり物りの世四幸う
ひとりのたきこそ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

延長四年十月十九日奉勅賜御衣袍文作風情倚題賦
袍之事一首
人々
宴下給禄事
六条院
汪酒 四韻 平均

さて一枚　伊勢物語業平恋仁云（いふ）てまつる
雄（を）　梅の枝（え）に付（つけ）　云（いふ）由（よし）聞（きく）　付（つけ）句（く）杉本（すぎもと）　某（それ）ノ
高七尺八寸　幸通（ゆきみち）　指（さし）本（もと）より末（すえ）迄（まで）
きこ）えて多（おほ）く付（つけ）ものなり　我（われ）ハ付（つけ）ず
ものの枝（えだ）折（おり）もて付（つけ）
すきものと付（つけ）
左（ひだり）近（こん）のうの部（へ）の約（やく）
一義（ぎ）を伝（つた）ふ家（いへ）ものにて　我（われ）を勅（ちょく）して左近（さこん）
うのうへ約（やく）ものなり

うりさて云（いふ）ていうて云（いふ）
ものなり　云（いふ）ものあまたさし
云（いふ）ものなり
ええそ
死（しに）そこなひ　ものと云（いふ）
くらもあり　さにうの字（じ）
世（よ）渡（わたり）我（われ）
みうのうへ　延喜（えんぎ）
一百十人　尚（なほ）二人　曲（くせ）

糸く暗し
こらうのすけ二人　藤老典侍し
いと云うらくよ　高徳し
おうしみまさる四おりさ由
そいふいられる列の
おらからや[illegible]おふて々
合稽ハ牛童のかき稽し　藤原家文にきこえの稽し
ろハ御持もまかくおり
業のたまきらみゆうおもてちの四こうちき
業のたまよらむ[illegible]らん[illegible]　又云藤原家文ハ[illegible]し

からころも　韓衣　作楊貴妃下
一ころもハ[illegible]人の衣也しきしうみうらし也ハ
おふかけて　思ひつらぬ婦し
作ときうハりうまきうりひきおけしう
騅史記曰　眥肩視項王　頭髪上指　目眥盡裂　項羽本記　樊噲が怒出する事し
これ思ひをおハるを
もろ毛立鳥すおしきつまひかり藤に立[illegible]
古今天眼[illegible]とうろうも[illegible]ハ世中とこ[illegible]

玉襷　巻八　蘭

婦嬢（ウラ）老けて
おかそうの云つくよう
うくめくきとそうと
てそんてうめ
月のれ来うれけ
桂村高音女下（ウラ）有二人
たそうてわつか
小雪うつく小面内の
まりへし

ヨセ山つれみりとえ
おかつうらてお水の
みりのくのとこの物くを
来之内内寺し
人つりつ
うつりの物之
うあいこう
ふ父も大のもと業年納女と 同住大

婚女の名
新兵衛女郎

[illegible]

今 嫗（シウナ） 老嫗（ラウワウ）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第十八　梅枝

薫物の伝来かね取拍子哥　梅枝
れいきれて　うたの拍子に右原の声の女わて
大十二くてこゝしこふも書付らしのへてう
書えなかりし二月に匂ふなりのてと
名月体書写の時応和三年二月廿八日元服
ひろわり勝し
大貮のるそまつたまる　意と　樹下集に大原石
薫合てよそまうる時合のよるゝ新のけに在非

朝臣　大貮
すゑの世にはいかなる梢の花の香ひに隠人こそかゝす
こまかのいてすゝまるあやひえこき
書鷲人　古流にて申す也　綾絲合挿し合と織付らう　こ人この札に
八条の式部の　四方とつくて　仁明天皇中七御子母従四位下　中原　一名式部　号八条式
此拍子名虎女
高名薫合ナリ
をかすきよる梅の枝に　高き紀氏ひえの山に
往かなる人の薫とひて作るもとはまうし
梅花ワつふ要河て作梅につけてつかし候

うるの朱香包　左今右集云朱香包とも
見のいうるの朱香包とも
おもてのいわゆの朱香包ともいふ
のの代今香とも
云忠朝臣　古今注曰丹朝
文考云香皇后
うく人おのうくめて　高名高義今ゝ
四ゝものさゝく　ゝの榊来とも伝み花み
のてすき事」ゝい伝の智ゝ筆ゝうく

宋さうりして　見人
ゝ代ゝへ花ゝ
事ゝ花今ゝめく
ゝ人ゝの孫ゝの物ゝ
ゝの名ある子ゝの竹ゝて
みゝきゝくおゝゝ
みゝきゝ名ゝの
ゝ源氏ゝれゝ
ゝわゝ

文字、真行草三折わり、
折ゐりくに折薬ハ
ちちちよりあひ
ちちちれ
ちちちつ

文字摸石

漢城四門古墨集、
百家集、共巻、聖義、
書之摸し、それ、

掌中暦し
漢城天望
前中書王
紅中玄王
高若納
久清古師
朝鮮
貞観
開成
佐理
行成
貞年
漢隷
唐
若納公法摸之
王羲之筆
行成
八十二摸

古のかた〳〵中物語のつゝ
文七こゝろ法花上

ふり井よ人りうき　そ
女のこゝろそつゝ人りうきこゝろたゝ
寛平の御時、たゝ
ゐ不失（うしなは）ゝこと
うへつまうくかつゝふ
かゝるうたをつまにおこせて
なむ出（いで）ゝ

古（いにしへ）の人（ひと）のもし

第十九

村上のみかど藤壺
せきもりのうちて待（まつ）

高祖大驚下詔大赦云云因為老上皇心喜
家令言（ノタマフ）賜（タマフ）令（シメ）百斤（ヒヤクキン）
ゑひてさり
たなのそこらすゑ酒吉て
為のうゑのと
きのすゑ為のうゑのそこらすゑ神（カミ）
たなの神まつる為の
すゑり為けきまつて
婦人（タヲヤメ）

たのしみをよまうとて
賀茂祭前月於雷鳴陣
陣の儀式作法見右近
其中古式神
祭の前の一日を
祓ありとて祭の叫
えんぎ
賀茂祭歌明天皇
亞相
御禊 永仁 勅下 御卜 行吉 吉日 令下 卜定

葵神祭
馬繋鈴人蒿物新而遍
近衛使例再近衛使可勤
とうのつのすけ
かつらをもろもりかぶ
桂林一枝 宮山所出
作物
菅原大下おりよりのよう
今の月のうるおう

業風ふきのそのち　時ならず
ぬのと立つるみをふるのみと
みをふるりとそれのつるるる
そをおのが風とみあてをし
とおもるまでさとをし
つるこのそをもちひるる
えるまでおひるる
しそをおもひるる
狐政人は十賀例
業年初院
古墳川のかなるる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

夜還鷹飼事　康保六年七月廿五日蔵人右
延光朝臣以下右馬助満仲右近府生多公
高右近番長播磨貞理等並為鷹飼
蔵人不離臣之
とゝの御　日本紀
十月ばかりせうようしけるにまかりてけれは
そでたかふかりきぬにかりころも[illegible]
子息親に勅禄ヲ賜フ又幸臣ニ儀し
はなのいろやまぶきのきれ　[illegible]

これよりみつるれ　[illegible]
かなしきあふさかのまつ　播磨ナリ　新和名
[illegible]これは人ごとにかりきぬ[illegible]
橡衣ハ四位以上着之例の如橡ハ上臈の着する
[illegible]ハ地下衣着する程の人ハ[illegible]
ハきぬかゆるとよう[illegible]
水鳥[illegible]ありくのすその[illegible]　或説云
[illegible]晴ニ用テ蔵人ハ橡と着するなり
[illegible]三月中十日ニ藤井氏某上着之

第二十　若葉上

小松葉のようなひょろひょろ
一名をこうやまき　高野山
部内立上下半　唐書例
礼記曲礼上下　檀弓上下　尚書太甲
以下略く　和漢例
うかの如き枝葉のこと
下十二行目末より五十五字上
十五行下和漢の書籍よりの例

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内裏を初服袴(ハカマ)を上(ウヘ)訳(ヲサ)衣(ミ)
厨子(ヅシ)の弁(ベン)備之(ソナフ)
ひとつ人(ビト)のおりてと
相(アヒ)具(グ)名望(ナモ)所(ドコロ)望(モ)
ともてなさるるのきりと
暁(アカツキ)装束(シヤウゾク)
うつりひよおりさ
陰(カゲ)裏(ミノ)地(ヂ)よりかけ
かつてのよしの
帳(トバリ)の内(ウチ)
蝶(テフ)洞(ホラ)の衣(キヌ)をこ一ともひ
ひろげてせまたれ
とてまりなる
ちんの上(ウヘ)のかひき
表着(ウハギ)の脇(ワキ)ひもを
さつかう
秋(アキ)ね歌(ウタ)
ものかの

内裏を初服袴を上訳衣厨子の弁備之ひとつ人のおりてと相具名望所望ともてなさるるのきりと暁装束うつりひよおりさ陰裏地よりかけかつてのよしの帳の内蝶洞の衣をこ一ともひろげてせまたれとてまりなるちんの上のかひき表着の脇ひもをさつかう秋ね歌ものかの

承平元年三月十四日
御入石山延暦寺座主権大僧都
[illegible]
[illegible]
[illegible]

七行 薤 蓼 芹 御飯 酒代 汁左
行のそうめん
放ち 扁の香之
そうめん 或設ヲ 弁当
登代 又 防葵 ところてんを添
らてんの汁 蝶 鉢 鍋
そうめんの汁 吸ものさうめんの汁
代 魚 鮒 煮汁 焼豆腐
椎野杉 鶏 擂 断 後蓋

[illegible]
椎野杉 有 狼 山水金 狼 花 村 寺
ものうどん 汁 そうめん 七人 そうめん
脇の男子二人 十二 人 かけうどん
人 こうどん 人 上京 汁 立
茶 地 汁 合 名 生
人 人 人 幸

貞享元年甲子

貞享元年甲子

延喜十三年十月廿日　改元貞享

一説に延喜十三年のまゝとする人あり

貞享二年乙丑

貞享三年丙寅

貞享四年丁卯

貞享五年戊辰

けりけく　兼之　取綾手　於同入綾　兼之
小のまへ下の歌とて
二条執政の家と小路殿と号す也二條
号世尊寺佐月末執政の時小路殿別當とか
いふと申すなる人は中の女と申すひめ
有まりて此えそとられけるに徒号のちと
懸想せられけくに後熊野とうつしく松塾
のもいふてさうる後夜廣とさうやうやて
やうけ流奔とえてさうを小路殿の号あり

ていかす人に
ちかせとことてかたくつるのもらいてもよ
もろ国のしるをめさいはくすしほのしるなさ川
まつし悩の一所すしつるのしるせとるそ
かるひかりまるせとるそむそかきひかり二所
みゆさかりもかくかくりとさてかれとと
吾身無佗吾我何不一幸年　文集以下同意し
かれ京の七大寺よみすみゆの御ゆかしん
寿永元　延宝四年十二月十九日　内裏書之

六百段ヲ六十解頒平均七大寺ニ各布六千端
（以下略）

百十解ヲ以テ事ニ当タラシメ其ノ労ヲ賞スルヲ以テ
仁明天皇百十解ヲ以テ一崩天暦軍ニ崩
東三条院百十崩
ノ時ニ准ジ
大饗ヲ行ヒテ女ノ装束ヲ賜フ事
六条院ノ時ニ准ジ大饗ヲ行フ事

中宮ノ饗ヲ行フ事
ノ大饗ヲ行フ事ニ
若狭ノ比
藤原朝臣 高藤 韓将 高藤 乾軒 重無（生前）
藤原朝臣 雪野 勅使 通天 琴通天
皆随ヒ奉ルベシ
皆随ヒ奉ルベシ
其ノ時ノ装束ハ
其ノ日ノ所ニ設ケ置クベシ
大納言安倍安仁 天安二年十二月十七日依病辞ス
大納言藤原道明 延喜十年八月十七日依病辞ス

…ん　　縮屋風と唐…

我ことすまん…

…てとうとうもやて…

…國守十…

六忌ふの言人　六…府　左大史…

…かりうと　賀を恩…

…とうやすまを…

右左り記　…年…

…物洗のこと…

…集今ひとう…

…じまうもうへとう…

…延喜式　四月廿…

…主殿　年始…

…ちうれ四…

四産前日不…

…撰勅常也　…

…東教ノ　答…

…降誕

[illegible]
[illegible]
[illegible]

於ㇾ夢ニ見ㇾ漂中物
ㇾ取ㇾ之ニ其ノ物ノ
ㇾ多ト云ヘリ
記栗枳王ノ女ノ夢ニ
夢ニ有ㇾ人ノ
漢書曰 明帝ノ
往ㇾ西方ニ過十万億佛土ニ
ㇾ有ㇾ世ニ
ㇾ多ト云ヘリ
法苑珠林ニ
ㇾ有ㇾ是ノ好
ㇾ漂ヒ
阿含経
ㇾ為ニ
ㇾ示ス

漢書ニ檢攝ス
ㇾ過ㇾ地ニ水ヲ
ㇾ移ス
ㇾ生ヲ
ㇾ彼ノ岸ニ
ㇾ施ㇾ

常在靈鷲山の会に佛(ほとけ)
住(とどまり)不滅(ほろびず)と説(とき)
給(たまひ)ふ也
文武百官(もろもろのつかさ)
悉(ことごとく)
皆(みな)

若葉ト　　ひ老名りりとと
ちとをつる　ひ京しりと　ニ月し
ちらのうゆと二月と
李ア王記天暦五年三月十日左近衛府
月下賜う正月十
云郷ニ下書常
左右のおされのつく
すけ注将心　中少
こゆとりの
御の茶とり左　史記曰楚王嘗由基養左肘
荷也云猴茶百歩而射之百発而百中左
左叡芳数千人皆曰善射
人とうくきつ　左人詩冊ニ批點の
つくもハんつくも
うちの山神と　宮人年四記云　腋閑特迷猫鼠
曰　獵猫一候太宰小貳源精社当来朝不獻於

先帝愛其毛色不類餘猫
[illegible]
[illegible]
内侍位つきて十八年
[illegible]
[illegible]
依[illegible]業俄脱[illegible]換
[illegible]
[illegible]
[illegible]

源氏ゆうつき所より井のき
[illegible]
のやとうちうちうちうち
冷泉院世次ぎ井の四門冷泉院
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いかにして何となしてか　トウ四郎
庭火しけむありさるかはやしさいはひくるをとうたうて
神楽又催馬楽（サイバラ）早歌（サウカ）　遊燎（こんび）
せんざいはせんざいせんざいやせんざいのせんざいはまんざいせんざい
まんざいはまんざいやよろづ代のまんざいや
千秋と一よふ　秋のよのあまたと
うへのきぬのいろいろをとをて
四位黒　五位緋（アケ）　六位緑袍
かの大舎のきうすゑのうらうたけるは一たまへるなそし

よの中は人これをたちて
長恨歌傳曰男不封侯女作妃君看女
却為門楣其ハ天下ノ心羨次第如此
春秋の彩色　春秋彩色胡蝶之　孔記云春見之秋不見
かりうたのくとものさくさ人々うけてみる人きひき
その色さしきわさとをそめぬ
琴之大曲之　春ハ角　夏ハ徴（チ）　秋ハ商　冬ハ羽　土用ハ
宮也　律ハ寒之　呂ハ温之　分ヵ清濁ヲ謂詞也
五乱ノ法曲之

ゆしわんする　由様押し　手仕し
笛聲倣諍律　和聲　若調子声　宮商角徴羽之
あすそのうれありなむと承ろさるて
宮女懐妬を散敗し前退出王　月やあ条内りあ　退病不得上己
女く色あそせん　四記日延圧三年十月十九日
后内教坊妓女十人　令奏絲竹
わたしのきりして　又云五位ノ楽者之起座之
楽之纏頭　四記日衣人不令寿賜纏子上
わ行をやゝかきれかうて　毛毋一百疋ふ成ありし

かくのうり若殿ばらのあわれてかくそけられ出立をと
儀そみけらしらはひそうて一段緑をう細線
春の象をつゝみわ紙に柳の糸をあらたと云
春のてうの様へみてうさわてするゆかうと
嵩さえ人院はまふ　春の夕風たりつ
ゆうらうてうのよみてうちのさそて
発ノ絃筝ノ調子ノ絃之　琴調ハ三の糸　琵琶調ハ五の糸之
とのゐすることも　直衣

ら
ひ
秀
の
羽
風
あ
て
そ
れ
め
て
く

緑
綠
楊
柳
弱
不
勝
秀
文集
柳

秀
の
風
よ
ひ
く
秀
柳

笠
花
か
秀
の
雲
い
そ
こ
そ
こ
く
二

月
そ
の
そ
ら
柳
の
秀
ら

さ
そ
そ
よ
人
そ
秀
の
そ
ら

柳
そ
ら
き
る
気
の
花
秀
秀
ら

お
月
的
気
そ
ら
そ
か

秀
の
か
ら
月
秋

春宵一刻直千金花有清香月有陰

女
女
子
也

女
子
也
感
二
陽
気
一
春
思
男
第
感
二
陰
気
一
秋
思
女
毛詩

皆
り
ひ
そ
き
そ
そ
て
そ
ら
く

ろ
と
い
つ
き
れ
地
よ
そ
ら

名
ハ
秀
の
そ
人
律
ハ

そ
そ
秀
坊
湯
殿
に

そ
人
の
人
秋
そ
そ
く
そ

白
虎
通
曰
琴
者
禁
也
禁
止
二
邪
気
一
正
二
人
心
一

文選曰 膳三餐而朞物下降何琴法之深 馬融琴
このことを曰そのものの
ちをとひ
礼記曰 玉者天地之和人曰移風易俗平下清寧
漢書礼楽志曰 蒙天地之制礼乎一歌一通神明立倫
うかがはんとおもひ
くみて
十のものを
ものにて

これいかにとそうしれものの
はんとうけて
なる事をわくる
おふくしみそうてふまそう
莫把悲絲漫離愁秋深篇外寃非
うふかけりやまと
日午見風採 若原佐世撰 未詳 廿三ノ二百七表
ふ人の孫とそうもて
也
衣器と中琴
法 高傳

[illegible]
佛紹[illegible]師紹[illegible]師[illegible]
[illegible]
[illegible]

万歳玉六打つそう砂よう
とそと玉六の砂六打の砂と
今集仲基難波潟玉六の砂
示現打つ書　あケ浦中玉六砂
つ井よりくわりてとそ
りそうそうそうそうの立ち
玉六とすまん
やうそれ神のひとうふ
有りて

人重ね歌旦人よあ来ありそりの
とそひろうそ地よ
小取雪小得福大取雪大得福
老の往日　薬之勝野　古薬嵩野　古薬嵩先右亡　天下莫不知　和薬弱方久長
対偶方折傍
ひくそうそうそうそうそう
我ものくさうそうそう
いいそ　すそりのくしそう
ちそ玉そ玉そ玉そ玉そ玉そ

資房記ス 叙三位 叔父
女御ときこえありつるが
女系二条后 董平 宣通
侍めきたるものなど
世中いとつれづれなるを
四月十九日 なきあとの
四月廿日午日 丑剋
ゆのつるまでつきもの
床のうへ三尺 晃元
人の泣とさんのふ秋
下官 袷 神ら娘子 拭ノ
おもて物言ふれすきまなく
おもて物言ふれすきまなく
おもて物言ふれすきまなく
おもて物言ふれすきまなく
西執筆 依延六月例ス
ふるまひのたまはせし
秋立つ

袍ノ
元良
見参
拭ノ
袷
不動義ノ
謝ス

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かく人三十人
三十餘人不得相會元敬角簪法聲
無名の衣のうへ　五世迄ハ猶もとゝ
さうさゆゑありて
こうさゆゑ辛ゝゆゑありて
今うさ　松仕右拍本ハ嫡
たゆゑありて　連タツ史礼
まうさなの　慶訶呵慮遮那　昌也舎那
舎那如来　三身
阿西山の法寺五十寺の
ありて　阿法ありて
のとうり　古今
云風心の字
多宝四仏

世皆不幸因　如水沫泡焰　けえん

幻世春来夢　活生小泡　ぶ

第廿二　横笛

嘔吐

（ヒマ）
胡麻是定 俗立

蛉虫

古今和歌集云 とうとぶ 死出の山路の 夕闇は 蛍の光 月澄(スミ)

万葉集 十六 蛉虫乎 吉跡(ヨシト)言霊 八十(ヤソ)乃(ノ)衢(チマタ) 占(ウラ)問(トフ)者(ヒト) 令告(ノラセ)

万葉集 十六 蛉虫乎 吉跡(ヨシト)言霊 八十(ヤソ)乃(ノ)衢(チマタ) 占(ウラ)問(トフ)者(ヒト) 令告(ノラセ)

万葉集 十六 蛉虫乎 吉跡(ヨシト)言霊 八十(ヤソ)乃(ノ)衢(チマタ) 占(ウラ)問(トフ)者(ヒト) 令告(ノラセ)

万葉集 十六 蛉虫乎 吉跡(ヨシト)言霊 八十(ヤソ)乃(ノ)衢(チマタ) 占(ウラ)問(トフ)者(ヒト) 令告(ノラセ)

万葉集 十六 蛉虫乎 吉跡(ヨシト)言霊 八十(ヤソ)乃(ノ)衢(チマタ) 占(ウラ)問(トフ)者(ヒト) 令告(ノラセ)

万葉集 十六 蛉虫乎 吉跡(ヨシト)言霊 八十(ヤソ)乃(ノ)衢(チマタ) 占(ウラ)問(トフ)者(ヒト) 令告(ノラセ)

けんくわ　計(ハカライ)
このしゆの人は　約束(ヤクソクカラハ)見賢愚(ケング)を
開白(カイビャク)結座夕座(セキザ)中間読誦結願(ケチグワン)し
ちかひのせかいの内の中のやうに
一に池中(チ)に花盛満(マン)花に(クワ)悉(スナハチ)是法性人各(トモニ)同半座
蓋し花蓋に約(ヤク)我同浮(ブ)同約人(ニン)　五合(ガウ)にそなへて
七そうのかしら有く　禅師　律師　九親　三礼
唄(バイ)　散花　梵讃(サンブ)　讃に七僧下
さとて　合(カツシヤウ)

家よおりりては　またふたゝび命まちまの
み帳のともをふかくの
金剛四同頂長舎
月のさん人まゐりうちくる　名記
延宝八年八月十五夜江州坂の蘇さまて老人
所のさのこともも月の寄せて御かたみの寺に於
遊よおり　前本経清寺
月のうちよひのさちとおわされかなかりは
ひさしき月の夜ちかくかみてこゝろのさためてことに

三五夜中新月色
二千里外故人心

節廿三　　孝帝

心室の義をもて名くるかごとくにして
思ひの心ろにてさとるかごとくにして
千日心斎ありて安養尼不等王ありて
まねりあひて対面するを　接（とれ）
てとそ云けき　世中ことに人てをさきた今序
弁のこと　接（つぐ）未経大徳　敦敏（あつし）　納言　会市（あきち）　納石言（おさいし）

清慎公（清敏公）　母宮大年

亮人（すけ）　母呵年右京大夫　清原（きよはら）　枕志右京
唐義云　母同

八月中の十日ありつる暮に
公ことさきのあるをとて男
女乳母（めのと）などまかりあつまりて
入（いり）ぬるのち給（たま）はせたりける
てらのけいをとりつゝひらくるに
つきありつるそこの

穀穂芙蓉（くまのほふよう）文集

豫（よ）州（しう）刺史（しし）

黒服（こくふく）

國（こく）

[illegible]
[illegible]
[illegible]

う人そ
ひそそうなそうて
うちやすわうふ
そうするあ
おとおそれ
当来うけのひさ
人非本石
柱のそ
試験高さ三尺
文集
ひて
気のみ
初保
ふ
麻痺
ひりてのけ
ひそのおの
其おもを
ふそわ人
そうさうさ
薩藤一句
白氏文集 孔子廟泊